

## 実体経済の動向

### ◇生産、出荷とも大幅減少

(生産——大幅減少)

11月の鉱工業生産(速報、季節調整済み、前月比)は、-3.1%とかなり大幅な落込みとなった(前年同月比-13.4%)。これは、鉄鋼、非鉄、化学、機械、紙・パルプ等多くの業種で需要減退・在庫累増に対処して、減産が一段と強化されたためである。製造工業生産予測指数(季節調整済み、前月比)によれば、12月も-0.6%と減少を続ける見込み。

11月の動きを特殊分類別にみると、資本財輸送機械(船舶、鉄道車両、乗用車<1,500cc超>等)が増加を続けたほかは、建設資材(形鋼、棒鋼、スチールサッシ、亜鉛鉄板等)が大幅減少となったのをはじめ、一般資本財(ポンプ、標準三相モーター、銅電線ケーブル等)、生産財(銑鉄、ポリエチレン、塩ビ樹脂、段ボール原紙等)、非耐久消費財(金属洋食器、陶磁器、合成洗剤等)が軒並み減勢を強め、また耐久消費財(カラーテレビ、

ステレオセット、35ミリカメラ等)も2か月連続増加のあと減少に転じた。

(出荷——大幅減少)

11月の鉱工業出荷(速報、季節調整済み、前月比)は前月増加のあと-4.8%と大幅に減少した(前年同月比-13.9%)。ふれの大きい船舶を除くと-3.2%と落込み幅はやや縮小したものの、2か月連続の減少となった。

特殊分類別にみると、建設資材が実需不振に加えて流通在庫調整の進捗(アルミサッシ、スチールサッシ等)や輸出の不振(形鋼、亜鉛鉄板等)などが響いて減勢を強めたほか、資本財輸送機械も船舶、乗用車(1,500cc超)の反動落ちもあって著減。また生産財(銑鉄、電気銅、塩ビ樹脂等)、一般資本財(ポンプ、標準三相モーター、電話機等)いずれも減少基調を続けたほか、耐久消費財は電気冷蔵庫等家電製品の不振、乗用車(1,000~1,500cc)の反動減などが響いて減少に転じ、非耐久消費財も繊維製品は増加したものの、金属洋食器、陶磁器等の不振から前月保合いのあと減少となった。

(製品在庫——増勢続く)

11月の鉱工業生産者製品在庫(速報、季節調整

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

|               | 48年    |       | 49年   |       | 49年   |       |       |
|---------------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|               | 10~12月 | 1~3月  | 4~6月  | 7~9月  | 9月    | 10月   | 11月   |
| 鉱 指 数         | 135.1  | 132.3 | 129.5 | 124.9 | 123.7 | 121.9 | 118.1 |
| 工 前 期(月)比     | 3.0    | -2.1  | -2.1  | -3.6  | 0.3   | -1.5  | -3.1  |
| 業 前 年 同 期(月)比 | 16.2   | 7.4   | 1.3   | -4.7  | -6.7  | -9.9  | -13.4 |
| 投 資 財         | 4.7    | -2.8  | -0.6  | -2.6  | -1.1  | -0.4  | -3.0  |
| 資 本 財         | 6.0    | -3.5  | 1.7   | -1.2  | -1.4  | -0.9  | -1.4  |
| 同(輸送機械を除く)    | 8.0    | -5.5  | 5.9   | -3.7  | -1.8  | -0.2  | -2.7  |
| 輸 送 機 械       | 2.2    | -0.5  | -5.7  | 3.1   | 2.0   | 4.0   | —     |
| 建 設 資 材       | 1.5    | -1.4  | 6.0   | -5.7  | -1.5  | -3.1  | -8.0  |
| 消 費 財         | 2.1    | -2.1  | -1.4  | -1.6  | 2.7   | 0.3   | -2.4  |
| 耐 久 消 費 財     | 2.0    | -1.2  | 5.1   | -0.8  | 5.1   | 1.3   | -3.1  |
| 非 耐 久 消 費 財   | 2.4    | -2.5  | 1.6   | -2.6  | 0.9   | -0.1  | -0.9  |
| 生 産 財         | 2.2    | -1.1  | -4.0  | -5.5  | -0.4  | -2.5  | -3.4  |

(注) 1. 通産省調べ、49年11月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

### 鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

|               | 48年    |       | 49年   |       | 49年   |       |       |
|---------------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|               | 10~12月 | 1~3月  | 4~6月  | 7~9月  | 9月    | 10月   | 11月   |
| 鉱 指 数         | 136.2  | 130.9 | 127.0 | 124.0 | 122.6 | 124.7 | 118.7 |
| 工 前 期(月)比     | 3.0    | -3.9  | -3.0  | -2.4  | -1.4  | 1.7   | -4.8  |
| 業 前 年 同 期(月)比 | 15.3   | 4.2   | -2.1  | -6.2  | -7.6  | -9.2  | -13.9 |
| 投 資 財         | 4.5    | -6.0  | 2.5   | -4.4  | -7.3  | 10.1  | -7.6  |
| 資 本 財         | 5.4    | -6.9  | 6.3   | -4.4  | -8.7  | 16.0  | -8.5  |
| 同(輸送機械を除く)    | 8.0    | -6.5  | 4.4   | -2.8  | 0     | -2.5  | -1.1  |
| 輸 送 機 械       | 2.2    | -8.0  | 9.6   | -6.9  | -23.8 | 56.6  | —     |
| 建 設 資 材       | 2.1    | -5.6  | -4.6  | -3.3  | -4.4  | -2.9  | -5.3  |
| 消 費 財         | 3.1    | -3.4  | -5.7  | 2.1   | 2.7   | 0.2   | -2.4  |
| 耐 久 消 費 財     | 2.0    | -4.8  | -9.7  | 5.7   | 5.7   | 0.9   | -3.0  |
| 非 耐 久 消 費 財   | 3.8    | -2.0  | -2.9  | -0.5  | 0.9   | 0     | -1.3  |
| 生 産 財         | 2.5    | -3.1  | -5.2  | -3.3  | -0.2  | -2.6  | -2.5  |

(注) 1. 通産省調べ、49年11月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

### 鉄工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

|            | 48年(期別) |       | 49年(期別) |       | 49年(月別) |       |       |
|------------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|-------|
|            | 12月     | 3月    | 6月      | 9月    | 9月      | 10月   | 11月   |
| 鉄工業製品在庫率   | 117.0   | 127.8 | 148.2   | 159.7 | 159.7   | 162.1 | 164.7 |
| 前期(月)末比    | -0.3    | 9.2   | 16.0    | 7.8   | 1.7     | 1.5   | 1.6   |
| 前年同期(月)末比  | 1.4     | 12.3  | 29.4    | 36.0  | 36.0    | 38.9  | 40.5  |
| 製品在庫率      | 87.6    | 103.4 | 118.8   | 130.3 | 130.3   | 130.0 | 138.8 |
| 投資財        | 8.4     | 16.4  | 19.4    | 12.1  | 2.8     | 1.9   | 1.9   |
| 資本財        | 13.9    | 19.2  | 23.3    | 13.8  | 1.8     | 2.0   | 1.9   |
| 同(輸送機械を除く) | 13.7    | 16.6  | 19.8    | 15.7  | 1.0     | 3.0   | 1.9   |
| 輸送機械       | 10.8    | 38.7  | 37.2    | 6.7   | 8.0     | 10.2  | —     |
| 建設資材       | 2.6     | 13.1  | 14.6    | 9.0   | 3.8     | 2.7   | 0.6   |
| 消費財        | -3.2    | 4.6   | 14.7    | 5.8   | 1.9     | 0.1   | 1.0   |
| 耐久消費財      | -4.2    | 8.9   | 21.5    | 7.5   | 2.5     | 0.3   | 0.8   |
| 非耐久消費財     | -2.4    | 1.8   | 9.7     | 4.2   | 1.8     | 0.4   | 0.8   |
| 生産財        | -2.8    | 9.2   | 15.5    | 7.1   | 0.9     | 1.9   | 2.4   |

(注) 1. 通産省調べ、49年11月は速報。  
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

済み、前月比)は+1.6%と増加を続けた。天然繊維製品や銅製品(銅電線ケーブル、伸銅製品等)等比較的早期に減産に入ったものおよび形鋼、棒鋼などここにきてかなり大幅の減産に踏み切ったものの中には在庫が減少に転じたものもあるが、その他高炉製品、合織、非鉄、化学(とくに合成樹脂)等大半の品種では引き続き累増した。

特殊分類別にみると、一般資本財、建設資材の在庫の増勢はやや鈍化した。生産財は各業種の減産の強化に伴う原材料手当ての圧縮を映じて増勢を続け、また耐久消費財、非耐久消費財は前月微減のあと、再び増加となった。

この間、生産者製品在庫率(45年=100、季節調整済み)は出荷の大幅減少と在庫の増勢続続から138.8(前月130.0)と大幅に増加した(船舶を除いた在庫率は10月133.2→11月139.8)。

(原材料在庫—10月は小幅の増加)

10月の製造工業原材料在庫(速報、季節調整済み、前月比)は+0.9%と小幅増加となったが、ならしてみれば7月以降横ばい基調で推移している。これは、原材料消費がこのところ減少傾向にあるものの、原材料手当ても圧縮されているため

### 製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減(-)率・%)

|         | 49年(期別) |       |       | 49年(月別) |       |       |
|---------|---------|-------|-------|---------|-------|-------|
|         | 3月      | 6月    | 9月    | 8月      | 9月    | 10月   |
| 在庫指数    | 140.9   | 144.9 | 144.9 | 145.0   | 144.9 | 146.2 |
| 前期(月)末比 | 6.7     | 2.8   | 0.8   | -0.5    | -0.1  | 0.9   |
| 国産分     | 7.4     | 1.3   | 1.1   | -0.5    | 0.6   | -0.1  |
| 素原材料    | 1.3     | 6.3   | 4.0   | 2.1     | 1.1   | 0.1   |
| 製品原材料   | 7.8     | 2.9   | 1.6   | -0.9    | 1.0   | 0.9   |
| 輸入分     | 1.8     | 7.1   | 2.8   | 1.2     | 2.0   | 2.2   |
| 素原材料    | 1.9     | 4.3   | 3.1   | 0.4     | 1.3   | 2.2   |
| 在庫率指数   | 111.6   | 119.0 | 123.5 | 121.2   | 123.5 | 126.0 |
| 国産分     | 111.8   | 117.7 | 122.7 | 119.5   | 122.7 | 123.8 |
| 素原材料    | 90.7    | 86.2  | 93.3  | 89.4    | 93.3  | 94.8  |
| 製品原材料   | 116.3   | 124.4 | 130.4 | 126.4   | 130.4 | 132.6 |
| 輸入分     | 107.9   | 118.2 | 121.1 | 124.2   | 121.1 | 126.5 |
| 素原材料    | 108.5   | 114.3 | 116.5 | 119.0   | 116.5 | 121.9 |

(注) 通産省調べ、49年10月は速報。

である。特殊分類別にみると、輸入素原材料は鉄鋼原材料、銅鉛石を中心にかなりの在庫増となったほか、国産製品原材料も粗鋼、ナフサ等を中心に小幅の増加をみた。この間、原材料在庫率指数(45年=100、季節調整済み)は126.0(前月123.5)と上昇基調を続けている。

(販売業者在庫—前月に続き減少)

9月の販売業者在庫(速報、季節調整済み、前月比)は-0.9%と前月(-0.7%)に引き続き減少。これは、繊維原料、鋼材等は需要減退を映じ、また非鉄は前月著増の反動もあってともに増加したものの、機械器具が決算月の販売促進もあって自動車、家電を中心に減少し、また織物も流通在庫調整の進捗を映じて減少したことによるものである。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減(-)率・%)

|         | 49年(期別) |       |       | 49年(月別) |       |       |
|---------|---------|-------|-------|---------|-------|-------|
|         | 3月      | 6月    | 9月    | 7月      | 8月    | 9月    |
| 総合指数    | 138.0   | 135.9 | 139.3 | 141.6   | 140.6 | 139.3 |
| 前期(月)末比 | 3.3     | -1.5  | 2.5   | 4.2     | -0.7  | -0.9  |

(注) 通産省調べ、49年9月は速報。

(設備投資——一般資本財出荷は前月に引き続き減少)

11月の一般資本財出荷(速報、季節調整済み、前月比)は前月減少(-2.5%)のあと-1.1%と引き続き減少した。これは、耕運機や車両用エアコンが増加を続け、また圧延機械、紡績機械、農業機械等が前月著減のあと反動増となったが、標準モーター、ポンプ等の汎用機種が流通在庫の調整進捗を映じ、また木工機械、コンベア、エレベーター等が建設向け需要の停滞からともに減少となったほか、このところ高水準を続けてきた化学機械や省力化・安全関連の各種機器(工業計器、コンピューターおよび周辺機器等)の出荷も増勢一服ないし減少に転じている。

11月の機械受注額(船舶を除く民需、季節調整済み、前月比)は前月著減のあと+3.1%と小幅の増加にとどまった。

業種別にみると、製造業向けでは、鉄鋼向けが大幅増加を示したものの、自動車向けが大幅減少となったほか、化学、石油精製、紙・パルプ、窯業向けなどが減勢を続けているため、前月比-4.4%と4ヵ月連続しての減少、一方非製造業向けは前月著減をみた電力向けの反動増もあって、増加(+10.7%)した。

この間官公庁向けは、新幹線車両の大口成約などから+14.3%とかなりの増加となった。

#### 需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

|          | 49年     |        |        | 49年    |         |        |
|----------|---------|--------|--------|--------|---------|--------|
|          | 1~3月    | 4~6月   | 7~9月   | 9月     | 10月     | 11月    |
| 民需       | 2,236   | 3,418  | 3,835  | 3,839  | 2,646   | 2,863  |
|          | (-50.8) | (52.8) | (12.2) | (7.4)  | (-31.1) | (8.2)  |
| 同(船舶を除く) | 2,018   | 3,004  | 3,638  | 3,676  | 2,561   | 2,640  |
|          | (-49.4) | (48.8) | (21.1) | (6.6)  | (-30.3) | (3.1)  |
| 製造業      | 1,128   | 1,690  | 2,127  | 1,923  | 1,447   | 1,383  |
|          | (-57.6) | (49.8) | (25.9) | (-9.3) | (-24.8) | (-4.4) |
| 非製造業     | 1,119   | 1,664  | 1,723  | 1,893  | 1,219   | 1,490  |
|          | (-41.9) | (48.7) | (3.6)  | (25.1) | (-35.6) | (22.2) |
| 同(船舶を除く) | 903     | 1,297  | 1,540  | 1,773  | 1,150   | 1,273  |
|          | (-33.6) | (43.6) | (18.8) | (31.7) | (-35.1) | (10.7) |

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

11月の建設工事受注額(民需、速報、季節調整済み、前月比)は-11.8%と前月(-12.1%)に引き続きかなりの減少となった。これは、9月に決算対策上受注繰上げ計上を行ったことがなお尾を引いているほか、発注サイドの支払条件悪化や設備計画見直しの動きなどを背景に引合いがあっても商談の進展がはかばかしくないこと(製造業)や、資金繰り難に加え建築規制もあって大口の案件が少ないこと(非製造業)などによるものとみられている。

#### ◇小売商況は低調

11月の全国百貨店売上高(速報、通産省調べ、季節調整済み、前月比)は、前月著減の反動もあって+4.9%とかなりの増加となったが、ならしてみれば増勢鈍化傾向が続いている。これは、実質所得の低下や不況感の浸透に伴う所得の先行き不安などを背景に、消費者の購買態度が依然として慎重なためとみられる。

なお12月の乗用車新車登録台数(速報、軽自動車を除く、自販連調べ、季節調整済み、前月比)は大衆車を中心に+13.8%とかなりの増加となった(前年同月比+54.4%)。これにはディーラー筋が年末手当支給期とあって販売努力を強化したことがかなり響いている。この結果、49年通計では前年比20.0%の減少となった。

#### ◇商品市況は一部を除き総じて軟弱地合い

12月の商品市況をみると、生糸、木材、セメント、基礎薬品等一部商品は反騰ないし底堅い動きを示したが、非鉄、紙、石油等が軟調を続けたほか、前月下げ止まり商状をみせた鉄鋼(薄板を除く)が小幅軟化し、10月央から急騰をみていた綿糸、そ毛糸も訂正安となるなど総じてみれば軟弱地合いとなった。

このように、主要商品の市況が月中総じて軟弱地合いとなったのは、ほぼ全業種にわたり減産が強化され供給は一段と絞られているものの、需要面で、①末端消費需要が伸び悩んでいること(繊維)、②主要業界の減産強化に伴い中間需要の低迷が続いていること、③官公需も回復基調にある

とはいえ盛り上がりには乏しいこと(鉄鋼、セメント、化学)、④輸出環境が悪化していること(鉄鋼、合繊、非鉄、合成樹脂)、などから需給バランスの回復が遅れていることが主因であるが、一部で年末を控えて換金売りの動き(石油、非鉄、紙等)がみられたことも響いている。

**鉄鋼** ……12月の鋼材市況をみると、鋼板類、条鋼類とも月初来弱保合いで推移したあと、月末には冷延薄板を除き小幅軟化。

これは、メーカー筋は減産を強化しているものの、①主力建設関連需要が季節的要因も加わって依然低迷を続けていること、②輸出成約も価格、量ともに不振であること、③これまで好調であった造船、自動車向けについてもこれらの業界が先行き減産に転ずると伝えられはじめたこと、などから、問屋、加工業者、平電炉メーカー等が資金繰りひっ迫もあって在庫調整を一段と強化するのではないかとの懸念が高まり、市場には先安感が再び台頭しつつあるためとみられている。

この間、くず鉄については、機械等関係業界の減産による発生減に加え、正月の集荷難を予想した備蓄買いから、月初に小幅上昇したあと、保合い商状となった。

**繊維** ……12月の繊維市況をみると、生糸は続伸したが、10月央から急騰をみていた綿糸、毛糸は訂正安商状となった。この間、合繊は弱保合いで推移した。

生糸の続伸は、①季節需要もあって織物市況が堅調なこと、②そのため春ものないし秋冬ものの糸手当ての商談、荷動きが活発化、市中在庫が圧縮されていること、③蚕糸事業団への窓口一元化による輸入の抑制効果が現れてきていること、などが背景。

綿糸、毛糸が反落したのは、減産を背景に需給バランスはようやく回復傾向にあるものの、①不況カルテルの内容が業界の要望より厳しいものとなったため失望売りを誘ったこと、②前月末までの相場持直しをながめて、中小紡績筋の一部には減産幅の縮小に転じた向きがみられたこと、な

どを映じたもの。

一方合繊は、メーカー筋の減産体制はほぼ足並みをそろえてきたものの、末端需要の不振、予想以上の輸出環境の悪化などが重なり、相場は弱含み保合いで推移している。

**非鉄金属** ……12月の非鉄金属市況をみると、鉛は保合いながら、銅、亜鉛は引き続き軟化し、またアルミも通月弱含みで推移するなど、総じて軟調を続けた。

こうした軟調商状の背景としては、①国際的な需給の緩和からLME相場が軟化を続けており(銅)、輸出環境も一段と厳しくなっていること(亜鉛、鉛)、また国内需給の面でも、②ユーザー筋の減産継続ないし強化を反映して実需が減退を続けているため、精錬各社の減産体制移行にもかかわらず山元在庫が累増し(銅、アルミ、亜鉛)、一部山元筋には資金繰りひっ迫から安値潜航販売の動きもみられること(銅)、などが挙げられる。

**石油製品** ……12月の石油製品市況をみると、ナフサ、C重油については一部で値上げ交渉が決着をみたものの、総じて値上げ浸透難が持続し、またガソリンは軟調に推移した。

これは、ガソリン以外の油種では、各需要家とも大幅減産を背景に総じて値上げに強い難色を示しているほか、すでに11月に値上げ浸透をみていたガソリンについてもエチレン・プラント減産のあおりをうけて荷もたれ感が強まったことなどから、一部元売りが安値でも量を出したいとの姿勢に転じたことなどによるもの。

**セメント** ……12月のセメント市況はメーカー筋の減産による在庫減少も手伝って値上げ交渉が一部で進捗したことからやや強含んだが、大勢としては建値の浸透は依然7～8割程度にとどまっている。

需給環境をみると、出荷は11月に国内向けの不振(前年比-14.3%)を映じて前年比-11%となったあと、12月入り後も15日までで同-14%(国内向けのみ)と依然低迷を続けているが、メーカー

筋が減産体制を継続(11月の生産の前年比-9.0%)しているため、在庫は前月に続き減少し、11月末には3.4百万トンと本年5月ごろの水準にまで減少した。

この間内需のかぎをにぎる建設受注についてみると、官公需については上期からの繰延べ分の発注もあって回復基調にあるが、民需の大幅な落込みをカバーするには至っていないと業界では受け止めている。

木材……前月下げ渋り商状となった外材(南洋材、米材、北洋材)が軒並み反騰したほか、これまで保合っていた内地材も一部品種で小反発を示すなど総じて強含みに推移した。市中相場がこのように11月後半を境に底入れし外材を中心に反発するに至ったのは、需要面で、①住宅建設等実需は引き続き低迷状態にあるものの、問屋等流通段階においては在庫調整が一巡したため小口ながら在庫補充買いが続いていること、②とくに原木丸太については、製材業者・問屋筋など各段階ともすでに在庫水準がかなり低下していたため、11月以降輸入原木の入着が目だって減少しはじめたことにより外材を中心に先高期待からの買い急ぎがかなりみられたこと、などの動きがみられたのに対し、供給面でも、①内地材については産地業者の出荷がこれまでの採算上の理由のほか、買い手筋の信用不安増大や季節的要因(冬場入りに伴う原木の出荷減少)もあってこのところ一段と削減されていること、②外材についても商社筋が輸入削減効果顕現を背景に売り腰を目だって強めていること、などが背景となっている。

化学……合成樹脂の市中相場は、高圧ポリエチレンが小反落に転じたほか、塩ビ、中低圧ポリエチレン、ポリスチレン等主要汎用樹脂も弱保合いで推移するなど、総じて軟弱地合いとなった。

これは、末端実需の停滞や各段階における在庫調整意欲の高まりを映じてプラスチック加工メーカー等ユーザー筋の購入態度が一段と慎重化しているほか、これまで相場の下支え要因となっていた輸出についても、このところ引合いが減少し、

輸出価格が低下するなど需給の引緩み傾向が強まっているためである。

品目別にみると、これまで需要落込みの比較的に少なかった高圧ポリエチレンが、軟質フィルム向けを中心に、ここへきてかなりの出荷減をみているほか、塩ビが官公需、民間住宅建設(硬質パイプ、電線被膜)の盛り上がり不足や輸出引合いの減少から、また中低圧ポリエチレン、ポリプロピレンがコンテナ、家電、家庭用雑貨向け需要の低迷などから、それぞれ大幅な出荷減となっている。このため各樹脂メーカーでは、これまでになく稼働率を落としているものの、需要の落込みが大きいと、荷もたれ感はいずれ強まっている。

一方、基礎薬品類の動向をみると、硫酸、カセイソーダとも前月上伸したあと堅調に推移した。

これは、①それぞれ、在庫の保有能力に限界があってもともと積み上がりが少なかったうえ、②需要動向についても、国内需要は低迷しているものの、輸出は肥料向け(硫酸)が好調のほか海外新設アルミ精錬所向け(カセイソーダ)などもあってなお堅調を持続していること、③一方供給は、非鉄、塩素の減産に伴い一段と減少(硫酸、カセイソーダ)していること、などから需給が引き締まっていることが主因である。

紙……紙は、各品種とも小幅続落した。これは、卸商段階では在庫調整がすでにかなり進捗したとみられるほか、洋紙、板紙ともさらに減産を強化(洋紙20→30%、板紙30~40→50%以上)しているものの、①年末の資金繰り対策のために中小メーカーの換金売りが増加、②これが市場における先安感を強め、ユーザー、卸商が当用買いに徹していること、③板紙では、実需の大幅減少(前年比4割減)からユーザー(段ボールメーカー等)の在庫調整が進まず、段ボール原紙のメーカー在庫は大幅減産にもかかわらずなお増加していること、などによる。

砂糖……国内相場(現物)は、月中10円方(上白大袋1kg当り)の軟化をみた。

これは、①ロンドン原糖相場が11月21日の650

ポンド(1英トン当り)をピークに400ポンド近くまで急落して先安感が強まり、②製菓業界等ユーザー筋の仮需がはく落、12月入り後荷動きが極端に細ったこと、③在庫をかなり積み増していたユーザー筋のなかには換金売りに出た向きもみられたこと、などによる。

(卸売物価——落ち着き傾向)

卸売物価は、11月に前月比+0.3%の上昇のあと12月も同+0.2%と落ち着き傾向を強めている(前年同月比+17.0%)。品目別にみると、原油高を映じて石油・石炭・同製品が統騰したほか、食料品、輸送用機器も上昇を続けたが、一方、非鉄金属はじめ鉄鋼、パルプ・紙・同製品等市況商品の軟化が目だった。

(工業製品生産者物価——統騰)

11月の工業製品生産者物価は、前月比+0.5%

の統騰となった。品目別にみると、パルプ・紙・同製品、普通鋼鋼材、合繊が統落した反面、天然繊維・化繊が大幅上昇したほか、電気機器、雑品目が統騰した。

(消費者物価——12月<東京都区部、速報>は小幅上昇)

12月の消費者物価(東京都区部、速報)は、野菜、果物等季節商品が引き続き値下がりしたほか、被服が統落、文房具、灯油等も下落したため、総合では前月比+0.4%(前月同+0.6%)と小幅上昇にとどまった(前年同月比+21.5%)。また季節商品を除く総合でも、前月比+0.6%と、騰勢はかなり鈍化した。

11月の全国消費者物価は、ガス料金の引上げから光熱費が大幅上昇したほか、雑費もかなりの上昇を示したが、季節商品の値下がりや、被服の落

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

|                   | ウ<br>ェ<br>イ<br>ト | 49 年       |            | 49 年 |      |      | 49 年 11 月 |     |     | 49年12月 |     |
|-------------------|------------------|------------|------------|------|------|------|-----------|-----|-----|--------|-----|
|                   |                  | 4~6月<br>平均 | 7~9月<br>平均 | 9 月  | 10 月 | 11 月 | 上 旬       | 中 旬 | 下 旬 | 上 旬    | 中 旬 |
| 総 平 均             | 100.0            | 3.4        | 2.9        | 0.1  | 0.5  | 0.3  | 0.4       | 0   | 0   | 0.1    | 0.1 |
| 食 料 品             | 13.4             | 2.4        | 4.7        | 2.4  | 3.8  | 1.8  | 1.2       | 0.1 | 0.6 | 0.4    | 0.3 |
| 非 食 料 農 林 産 物     | 2.4              | 7.8        | 0.8        | 2.7  | 2.0  | 1.6  | 0.2       | 1.7 | 0.8 | 0.5    | 0.3 |
| 織 維 製 品           | 7.8              | 6.3        | 7.3        | 2.3  | 1.3  | 0.9  | 0.6       | 0.3 | 0.2 | 0.4    | 0.4 |
| 製 材 ・ 木 製 品       | 3.8              | 7.6        | 3.5        | 1.9  | 2.2  | 1.5  | 0.2       | 0.1 | 0.3 | 0.5    | 0.7 |
| パ ル プ ・ 紙 ・ 同 製 品 | 2.8              | 0.4        | 1.8        | 0.2  | 0.5  | 1.2  | 0.3       | 0.1 | 1.0 | 0.8    | 0.3 |
| 金 属 素 材           | 1.9              | 12.7       | 0.8        | 2.2  | 10.2 | 0.6  | 0.9       | 0.5 | 0.1 | 1.1    | 0.8 |
| 鉄 鋼               | 9.4              | 4.4        | 13.3       | 0.1  | 2.6  | 2.1  | 0.9       | 0.3 | 0.3 | 0.3    | 0.5 |
| 非 鉄 金 属           | 4.2              | 4.6        | 14.7       | 8.5  | 2.6  | 1.2  | 0.2       | 0.2 | 0.8 | 0.9    | 1.7 |
| 金 属 製 品           | 3.8              | 4.0        | 1.2        | 0.2  | 0.9  | 0.4  | 0.7       | 0.1 | 0.4 | 0.2    | 0.1 |
| 電 気 機 器           | 9.0              | 3.2        | 1.9        | 0.6  | 0.1  | 1.6  | 0.9       | 0.5 | 0.3 | 0      | 0.3 |
| 輸 送 用 機 器         | 6.8              | 2.3        | 1.8        | 0.2  | 0.1  | 0.4  | 0.2       | 0   | 0   | 1.0    | 0.7 |
| 一 般 ・ 精 密 機 器     | 10.8             | 3.9        | 2.2        | 0.5  | 0.5  | 0.2  | 0.1       | 0.1 | 0.1 | 0.1    | 0.2 |
| 化 学 製 品           | 8.8              | 0.2        | 3.9        | 1.0  | 2.3  | 0.4  | 0.2       | 0   | 0.2 | 0.1    | 0.1 |
| 石 油 ・ 石 炭 ・ 同 製 品 | 4.6              | 30.3       | 10.2       | 0.4  | 4.2  | 1.3  | 0.6       | 0.1 | 0.1 | 0.7    | 0.3 |
| 窯 業 製 品           | 3.1              | 2.4        | 3.2        | 2.4  | 0.2  | 0.1  | 0         | 0   | 0.1 | 0.1    | 0   |
| 雑 品 目             | 7.6              | 4.4        | 8.3        | 0.7  | 1.6  | 1.1  | 0.8       | 0.1 | 0.4 | 0.1    | 0.1 |
| 工 業 製 品           | 85.5             | 2.4        | 1.8        | 0.1  | 0.5  | 0.2  | 0.2       | 0.1 | 0.1 | 0.1    | 0   |
| 大 企 業 性 製 品       | 63.3             | 3.7        | 2.6        | 0.1  | 0.8  | 0.4  | 0.3       | 0.1 | 0   | 0      | 0   |
| 中 小 企 業 性 製 品     | 20.1             | 1.7        | 1.4        | 0.3  | 0.3  | 0.4  | 0.1       | 0.1 | 0.2 | 0.2    | 0.3 |
| 非 工 業 製 品         | 14.5             | 7.9        | 8.9        | 0.7  | 0.6  | 1.1  | 1.2       | 0.3 | 0.2 | 0.5    | 0.2 |

(注) 日本銀行調べ。

## 消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

|                       | ウエイ<br>イト | 49 年       |            | 49 年  |       |       | 最近月<br>の前年<br>同月比 |        |
|-----------------------|-----------|------------|------------|-------|-------|-------|-------------------|--------|
|                       |           | 4~6月<br>平均 | 7~9月<br>平均 | 10月   | 11月   | 12月   |                   |        |
|                       |           |            |            |       |       |       |                   |        |
| 消<br>費<br>者<br>物<br>価 | 総 合       | 100.0      | 5.0        | 3.5   | 2.2   | 0.6   | * 0.4             | * 21.5 |
|                       | (季節商品を除く) | 91.3       | 5.0        | 3.1   | 3.6   | 1.0   | 0.6               | 21.5   |
|                       | 食 料       | 40.3       | 3.4        | 4.1   | 1.4   | 0.4   | * 0.8             | * 24.8 |
|                       | 住 居       | 11.8       | 5.1        | 1.4   | 1.2   | 0.6   | 0.1               | 18.8   |
|                       | 光 熱       | 3.7        | 4.4        | 16.4  | - 0.1 | 0     | - 0.2             | 34.4   |
|                       | 被 服       | 12.4       | 8.1        | 0.2   | 1.5   | - 0.1 | - 0.3             | 11.5   |
|                       | 雑 費       | 31.8       | 5.9        | 3.6   | 4.4   | 1.3   | 0.3               | 21.2   |
|                       | 特 殊 分 類   |            |            |       |       |       |                   |        |
|                       | 農 水 畜 産 物 | 16.6       | 1.7        | 5.2   | 0.3   | - 2.2 | ...               | 30.0   |
|                       | 工 業 製 品   | 43.6       | 5.7        | 2.0   | 1.2   | 0.8   | ...               | 22.6   |
|                       | うち大企業製品   | 19.8       | 4.9        | 3.5   | 1.6   | 1.5   | ...               | 26.8   |
|                       | 中小企業製品    | 23.8       | 6.4        | 1.0   | 0.9   | 0.4   | ...               | 20.1   |
|                       | サ ー ビ ス   | 37.0       | 5.5        | 3.0   | 4.1   | 1.6   | ...               | 23.0   |
| 全 国                   |           |            |            |       |       |       |                   |        |
| 総 合                   | 100.0     | 4.7        | 3.8        | 2.3   | 0.7   | ...   | 25.8              |        |
| (季節商品を除く)             | 91.0      | 5.0        | 3.4        | 3.4   | 1.1   | ...   | 25.4              |        |
| 輸 出 物 価               |           |            |            |       |       |       |                   |        |
| 輸 出                   |           | 4.8        | 7.2        | - 0.1 | - 1.0 | ...   | 26.5              |        |
| 輸 入                   |           | 10.9       | 7.5        | 0.8   | 0.7   | ...   | 59.1              |        |
| 交 易 条 件               |           | - 6.0      | - 0.3      | - 1.0 | - 1.7 | ...   | -20.5             |        |

(注) 1. 消費者物価は総理府統計局調べ、輸出入物価は日本銀行調べ。  
2. \* 印は速報。

着きもあって、総合では前月比+0.7%(前年同月比+25.8%)と騰勢は鈍化した。もっとも、季節商品を除く総合では前月比+1.1%(前年同月比+25.4%)の上昇となった。

## (輸出物価——統落、輸入物価——統騰)

11月の輸出入物価は、輸送用機器が引き続き上昇したものの、化学製品、繊維品、金属・同製品等が下落し、前月比-1.0%(前月同-0.1%)の統落となった。一方輸入物価は、繊維品、木材・同製品が統落したものの、原油、原料炭の値上がりから鉱物性燃料が高騰したほか、機械器具も上昇し、前月比+0.7%(前月同+0.8%)と統騰した。

この結果、11月の交易条件指数(71.4、45年=100)は前月比-1.7%の悪化となった。

## ◇総合収支は3ヵ月連続の黒字

11月の国際収支は総合収支で230百万ドルの黒字となり9月以来3ヵ月連続の黒字となった(前月黒字354百万ドル)。

これは、貿易収支が黒字幅を縮小したうえ、長期資本収支も9、10月と続いたオイル・マネーの取入れが一巡したことから再び流出超に転じた反面、短期資本収支が黒字に転じ、誤差脱漏項目でも大幅な黒字を計上したことによる。

11月の貿易収支を季節調整後でみると、輸入は木材、繊維原料が引き続き減少した反面、鉄鋼原料の増加傾向持続等から前月比+1.5%の微増となった反面、輸出が前月著伸した船舶、鉄鋼等の反動減を主因に前月比-4.4%と落込みをみたことから、収支じりでは622百万ドルの黒字となり前月(黒字924百万ドル)に比し黒字幅は縮小した。

長期資本収支は前月(流入超95百万ドル)とは様変わり520百万ドルの流出超となった。これは本邦資本の流出超額が、国際開発協会(IDA)の第4次増資に対する払込みや対外直接投資の増加を映じて506百万ドルと前月(同380百万ドル)に比して拡大し、外国資本も9、10月と続いたオイル・マネーの流入一巡から再び流出超(14百万ドル、前月流入超475百万ドル)に転じたためである。

反面、短期資本収支では船舶前受金の引落としは続いたものの、IDAに対する増資払込金の一時滞留およびBCユーザンスの決済水準低下などから130百万ドルの流入超となり(前月流出超90百万ドル)、誤差脱漏項目でも471百万ドルの黒字となった。

金融勘定をみると、為銀ポジションはユーロ・マネーの取入れは減少したものの、外銀借入れの増加などから月中47百万ドル悪化し、11月末負債超過額は12,206百万ドルとなった(前年同月末同

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

|                      | 49 年                 |                      |                    | 49 年           |              |                  | 48年11月               |
|----------------------|----------------------|----------------------|--------------------|----------------|--------------|------------------|----------------------|
|                      | 1～3月                 | 4～6月                 | 7～9月               | 9 月            | 10 月         | 11 月             |                      |
| 経 常 収 支              | △ 3,274              | △ 2,377              | △ 67               | 85             | 341          | 149              | △ 78                 |
| 貿易収支                 | △ 1,835              | △ 821                | 1,613              | 690            | 846          | 649              | 345                  |
| 輸 出                  | 10,104               | 13,484               | 14,696             | 4,672          | 5,361        | 4,999            | 3,484                |
| 輸 入                  | 11,939               | 14,305               | 13,083             | 3,985          | 4,515        | 4,350            | 3,139                |
| 貿易外収支                | △ 1,394              | △ 1,418              | △ 1,620            | △ 574          | △ 488        | △ 482            | △ 392                |
| 移 転 収 支              | △ 45                 | △ 138                | △ 60               | △ 31           | △ 17         | △ 18             | △ 31                 |
| 長期資本収支               | △ 1,591              | △ 1,045              | △ 587              | 126            | 95           | △ 520            | △ 1,102              |
| 本邦資本                 | △ 1,238              | △ 890                | △ 791              | △ 319          | △ 380        | △ 506            | △ 927                |
| 外国資本                 | △ 353                | △ 155                | 204                | 445            | 475          | △ 14             | △ 175                |
| 基礎的収支                | △ 4,865<br>(△ 4,236) | △ 3,422<br>(△ 2,630) | △ 654<br>(△ 1,374) | 211<br>(△ 249) | 436<br>(514) | △ 371<br>(△ 398) | △ 1,180<br>(△ 1,163) |
| 短期資本収支               | 872                  | 137                  | 297                | 110            | △ 90         | 130              | △ 172                |
| 誤差脱漏                 | △ 144                | 220                  | △ 238              | △ 193          | 8            | 471              | △ 359                |
| 総 合 収 支              | △ 4,137              | △ 3,065              | △ 595              | 128            | 354          | 230              | △ 1,711              |
| 金 融 勘 定              | △ 4,137              | △ 3,065              | △ 595              | 128            | 354          | 230              | △ 1,711              |
| 外貨準備増減               | 180                  | 1,003                | △ 260              | 266            | 282          | 287              | △ 853                |
| そ の 他                | △ 4,317              | △ 4,068              | △ 335              | △ 138          | 72           | △ 57             | △ 858                |
| 外 貨 準 備 高            | 12,246               | 13,429               | 13,169             | 13,169         | 13,451       | 13,738           | 13,196               |
| 為 銀 対 外<br>ポ ジ シ ョ ン | △ 7,765              | △ 11,896             | △ 12,262           | △ 12,262       | △ 12,159     | △ 12,206         | △ 3,292              |

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。  
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

|          | 国際収支ベース           |                   |       | 通 関               |                   | 輸 出               | 輸 出               | 輸入承認・             |
|----------|-------------------|-------------------|-------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
|          | 輸 出               | 輸 入               | 貿易じり  | 輸 出               | 輸 入               | 信用状               | 認 証               | 届 出               |
| 49年 1～3月 | 3,687<br>(+ 8.6)  | 4,089<br>(+ 25.8) | △ 402 | 3,759<br>(+ 9.0)  | 4,751<br>(+ 23.1) | 3,014<br>(+ 18.4) | 3,956<br>(+ 7.0)  | 5,671<br>(+ 29.0) |
| 4～6 "    | 4,599<br>(+ 24.8) | 4,609<br>(+ 12.7) | △ 10  | 4,695<br>(+ 24.9) | 5,375<br>(+ 13.2) | 3,362<br>(+ 11.6) | 4,973<br>(+ 25.7) | 6,131<br>(+ 8.1)  |
| 7～9 "    | 4,758<br>(+ 3.5)  | 4,460<br>(- 3.2)  | 298   | 4,853<br>(+ 3.4)  | 5,295<br>(- 1.5)  | 3,659<br>(+ 8.8)  | 5,312<br>(+ 6.8)  | 5,629<br>(- 8.2)  |
| 49年 8月   | 4,914<br>(+ 1.2)  | 4,371<br>(- 7.7)  | 543   | 4,911<br>(- 1.5)  | 5,200<br>(- 8.6)  | 3,871<br>(+ 2.8)  | 5,683<br>(+ 10.3) | 5,516<br>(- 7.4)  |
| 9 "      | 4,505<br>(- 8.3)  | 4,275<br>(- 2.2)  | 230   | 4,671<br>(- 4.8)  | 5,011<br>(- 3.6)  | 3,339<br>(- 13.7) | 5,100<br>(- 10.3) | 5,414<br>(- 1.8)  |
| 10 "     | 5,317<br>(+ 18.0) | 4,393<br>(+ 2.8)  | 924   | 5,416<br>(+ 15.9) | 5,245<br>(+ 4.7)  | 3,625<br>(+ 8.6)  | 5,581<br>(+ 9.4)  | 5,201<br>(- 3.9)  |
| 11 "     | 5,083<br>(- 4.4)  | 4,461<br>(+ 1.5)  | 622   | 5,124<br>(- 5.4)  | 5,258<br>(+ 0.2)  | 3,507<br>(- 3.3)  | 5,339<br>(- 4.3)  | 5,680<br>(+ 9.2)  |

- (注) 1. 四半期計数は月平均。  
 2. カッコ内は前期(月)比増減率(%)。



3,292百万ドル)。

この間、外貨準備は月中287百万ドル増加し、月末残高は13,738百万ドルとなった。

(輸出—減少)

11月の輸出(国際収支ベース)は季節調整後で前月比-4.4%(通関ベース同-5.4%)と、前月大幅な伸び(同+18.0%、通関ベース同+15.9%)を示したあとかんがりの減少となった。原計数の前年同月比でみても+43.5%と前月(同+63.5%)に比しかんがりの伸び率鈍化となった(通関ベースの邦貨表示額では同+58.7%、前月同+83.6%)。

品目別(通関ベース)にみると、自動車为好伸したものの、前月著伸の船舶、鉄鋼が反動減となったほか、繊維品、弱電製品等も減少した。

通関輸出額の伸びを価格と数量に分けてみると、輸出価格は繊維品が一段と低下したものの、船舶、鉄鋼、自動車等の上伸から前月比+0.6%と若干の上昇をみた(前年同月比+22.9%)。一方輸出数量(季節調整済み前月比)は、自動車が高い伸びを示した反面、船舶、鉄鋼等が前月の反動もあって大幅な減少となり、弱電製品も減少したことなどから-8.0%と前月(同+17.1%)に比べ様変わり減少となった(原計数の前年同月比+16.7%)。

地域別にみると、ソ連向け(季節調整済み前月比+13.0%)の好調が目だったほか、米国向け(同+1.4%)も鉄鋼を中心に持直し傾向を持続したものの、東南アジア向け(同-9.2%)は繊維品の落

通 関 輸 出 の 内 訳

(対前年同期(月)比増減(-)率・%)

|          | 49 年        |             |              |        | 49 年         |             |       |
|----------|-------------|-------------|--------------|--------|--------------|-------------|-------|
|          | 1~3月        | 4~6月        | 7~9月         | 輸出額    | 10月          | 11月         | 輸出額   |
| 食 料 品    | 25.8(-4.3)  | 12.0(-9.8)  | -1.7(-11.6)  | 217    | -30.3(-7.1)  | -20.6(10.1) | 73    |
| 魚 介 類    | 67.8(-2.1)  | 16.4(-19.6) | -7.9(-11.3)  | 135    | -35.2(-5.1)  | -27.5(13.8) | 42    |
| 繊維・同製品   | 27.1(11.3)  | 37.7(9.2)   | 31.4(0.4)    | 1,109  | 25.5(4.3)    | 8.8(-10.9)  | 311   |
| 合 織 糸    | 29.9(7.9)   | 49.9(19.0)  | 61.8(13.8)   | 181    | 22.8(-7.5)   | 3.8(-12.1)  | 42    |
| 綿 織 物    | 16.1(10.5)  | 43.3(12.7)  | 26.4(-10.5)  | 59     | 31.1(15.1)   | 12.6(-8.9)  | 20    |
| 合 織 織 物  | 33.1(13.0)  | 40.5(10.4)  | 28.7(-0.8)   | 340    | 38.5(9.6)    | 15.7(-11.4) | 100   |
| 化学製品     | 45.4(15.1)  | 77.2(37.2)  | 125.1(32.7)  | 1,239  | 114.8(-6.4)  | 101.0(-3.2) | 379   |
| 非金属鉱物製品  | 28.0(5.2)   | 28.4(16.1)  | 17.2(-6.9)   | 181    | 24.2(16.0)   | 12.6(-11.1) | 53    |
| 金属・同製品   | 56.3(15.8)  | 99.1(36.0)  | 120.8(16.4)  | 3,828  | 128.2(23.2)  | 121.3(-6.2) | 1,411 |
| 鉄        | 60.7(14.6)  | 94.8(30.5)  | 119.0(19.1)  | 2,947  | 133.2(27.3)  | 129.8(-5.8) | 1,174 |
| 機械機器     | 31.8(3.4)   | 51.0(27.9)  | 35.1(-5.4)   | 7,212  | 49.7(25.9)   | 20.4(-6.4)  | 2,475 |
| (船舶を除く)  | 34.6(9.9)   | 41.6(17.1)  | 37.8(1.1)    | 5,916  | 33.9(5.9)    | 30.7(-1.8)  | 1,920 |
| 事務用機器    | 2.7(-18.6)  | -5.5(4.9)   | -10.1(1.2)   | 188    | 11.6(-24.8)  | -19.9(22.5) | 62    |
| テレビ      | 10.4(5.8)   | 28.0(17.9)  | -17.9(-10.7) | 203    | 28.9(25.6)   | 19.1(-2.7)  | 52    |
| ラジオ      | 15.6(-0.1)  | 16.6(12.0)  | 10.0(-8.4)   | 378    | 9.9(8.1)     | -0.4(-8.7)  | 105   |
| 自動車      | 35.9(13.3)  | 53.5(23.0)  | 55.7(8.7)    | 1,378  | 36.1(-9.0)   | 48.0(15.8)  | 464   |
| 二輪自動車    | 68.6(25.1)  | 59.4(4.0)   | 73.2(36.7)   | 382    | 92.1(8.6)    | 58.3(-23.3) | 126   |
| 船舶       | 20.1(-13.3) | 100.5(93.8) | 23.8(-30.4)  | 1,296  | 144.6(186.1) | -5.4(-49.7) | 555   |
| 光学機器     | 49.5(20.4)  | 39.9(1.7)   | 37.7(5.8)    | 359    | 24.0(-1.3)   | 33.1(2.0)   | 111   |
| テープレコーダー | 4.7(1.9)    | -2.0(4.7)   | -7.0(-9.8)   | 196    | -9.0(4.5)    | -11.3(-5.5) | 58    |
| その他      | 32.1(13.8)  | 51.5(10.4)  | 51.4(11.0)   | 1,191  | 55.1(7.7)    | 61.5(-3.3)  | 396   |
| 合 計      | 36.5(9.0)   | 59.1(24.9)  | 55.5(3.4)    | 14,973 | 63.9(15.9)   | 43.5(-5.4)  | 5,099 |
| (船舶を除く)  | 38.5(12.1)  | 55.1(19.2)  | 59.3(8.3)    | 13,677 | 57.1(7.9)    | 53.2(-2.3)  | 4,544 |

(注) カッコ内は季節調整済み前期(月)比(%)。

## 通 関 輸 入 の 内 訳

(対前年同期(月)比増減(-)率・%)

|           | 49 年         |              |              |        | 49 年          |              |       |
|-----------|--------------|--------------|--------------|--------|---------------|--------------|-------|
|           | 1～3月         | 4～6月         | 7～9月         | 輸入額    | 10月           | 11月          | 輸入額   |
| 食 料 品     | 68.6(- 0.4)  | 45.4( 15.6)  | 20.0(- 7.3)  | 1,870  | 23.6( 22.6)   | 18.8( 1.4)   | 766   |
| 肉 類       | 32.8(- 3.9)  | 46.0(-34.2)  | 63.3(-31.3)  | 91     | 41.8( 39.4)   | 54.7(-10.4)  | 36    |
| 魚 介 類     | 54.8(- 6.6)  | 5.8(- 2.0)   | 11.3(- 6.2)  | 236    | 4.6( 17.2)    | 12.1(-14.3)  | 94    |
| 小 麦       | 101.1( 24.0) | 119.1( 36.7) | 62.6(-12.9)  | 265    | 63.2( 36.4)   | 33.1(-14.3)  | 100   |
| とうもろこし    | 102.5( 5.2)  | 104.9( 15.6) | 36.9(-13.1)  | 194    | 21.6(- 3.3)   | 49.1( 63.0)  | 96    |
| 砂 糖       | 83.2(- 0.4)  | 120.4( 49.1) | 156.2( 37.6) | 308    | 248.1( 144.3) | 239.6(-38.4) | 166   |
| 原 燃 料     | 107.8( 41.3) | 102.1( 15.8) | 92.4( 4.3)   | 10,073 | 78.6( 2.8)    | 75.0( 3.8)   | 3,323 |
| 羊 毛       | 2.2(-18.0)   | 59.4(-52.8)  | 61.0(- 3.0)  | 108    | 71.4(-12.1)   | 59.7(-16.1)  | 22    |
| 綿 花       | 33.9( 20.3)  | 44.6( 3.8)   | 86.7( 39.7)  | 278    | 33.1(-30.4)   | 23.2(- 1.3)  | 72    |
| 鉄 鉱 石     | 35.1( 21.8)  | 24.5(-13.2)  | 24.0( 11.9)  | 527    | 18.4( 3.2)    | 27.8( 6.7)   | 182   |
| 鉄 鋼 く ず   | 4.5(-24.8)   | 1.8( 26.7)   | 43.6( 60.9)  | 170    | 43.6( 5.6)    | 108.3( 19.8) | 52    |
| 非鉄金属鉱     | 67.7( 30.9)  | 83.1( 14.8)  | 12.8(-29.3)  | 650    | 19.0( 32.7)   | 6.6(- 1.7)   | 191   |
| 大 豆       | 65.6( 31.0)  | 5.5(- 8.2)   | 21.5(-27.0)  | 170    | 35.8( 59.5)   | 93.8( 57.9)  | 76    |
| 木 材       | 46.1(- 0.8)  | 12.8( 1.9)   | 13.4(- 2.0)  | 923    | 3.8(- 5.3)    | 26.3(-24.2)  | 217   |
| 石 炭       | 45.5( 14.7)  | 54.6( 15.0)  | 146.3( 70.3) | 838    | 157.0( 1.8)   | 179.2( 9.9)  | 352   |
| 原 油       | 232.9( 95.0) | 274.2( 32.5) | 226.6( 2.5)  | 4,924  | 187.6( 7.3)   | 173.4( 1.4)  | 1,686 |
| 化 学 製 品   | 88.9( 10.3)  | 84.7( 13.7)  | 35.8(-14.8)  | 614    | 1.2( 0.6)     | 10.6(- 4.9)  | 188   |
| 機 械 機 器   | 51.3( 0.2)   | 58.9( 14.3)  | 18.2(- 5.1)  | 1,099  | 7.5(- 1.0)    | 20.1(- 6.7)  | 391   |
| 航 空 機     | 119.3( - )   | 652.4( - )   | 18.7( - )    | 78     | 46.8( - )     | 396.4( - )   | 38    |
| そ の 他     | 73.3( 4.6)   | 37.3( 1.9)   | 1.2(-17.3)   | 1,776  | 15.4(- 5.4)   | 27.3(- 6.3)  | 453   |
| 合 計       | 90.8( 23.1)  | 78.7( 13.1)  | 55.1(- 1.4)  | 15,472 | 42.4( 4.7)    | 38.3( 0.2)   | 5,121 |
| 工 業 用 原 料 | 101.6( 33.1) | 93.3( 15.2)  | 75.6( 0.7)   | 11,564 | 57.3( 2.3)    | 50.8(- 1.7)  | 3,686 |
| 消 費 財     | 76.3( 8.2)   | 43.6( 7.1)   | 12.9(- 9.6)  | 2,778  | 14.5( 12.2)   | 12.7( 3.7)   | 1,068 |
| 一 般 消 費 財 | 92.0( 9.3)   | 55.9( 3.9)   | 8.5(-13.6)   | 683    | 8.8(- 5.1)    | 17.1(- 5.9)  | 181   |
| 資 本 財     | 52.6( 5.8)   | 63.3( 15.9)  | 18.4(- 8.2)  | 1,018  | 6.4(-11.3)    | 21.4(- 8.2)  | 347   |

(注) カッコ内は季節調整済み前期(月)比(%)。

込み持続を主因に、またEC向け(同-10.2%)は船船引渡しの低調から不振が続き、中国向け(同-19.6%)がかなりの減少となったほか、中近東向け(同-8.2%)、中南米向け(同-3.9%)いずれも増勢一服のかたちとなった。

先行指標である輸出信用状接受高(季節調整済み前月比)は11月-3.3%とやや減少したあと、12月は+6.6%と再び増加した。品目別には化学肥料の著伸および鉄鋼、自動車の高水準持続が目だったが、電気機械、繊維は不調を続けた。

(輸入—微増)

11月の輸入(国際収支ベース)は季節調整後で前月比+1.5%(通関ベース同+0.2%)の微増(前月同

+2.8%、通関ベース同+4.7%)となった。もっとも、原計数の前年同月比では+38.6%と前月(同+43.2%)に比べ伸び率がやや鈍化した(通関ベースの邦貨表示額では+52.8%、前月同+59.2%)。

品目別(通関ベース)にみると、とうもろこし、大豆が大幅増加したほか、鉄鋼くず、石炭が増勢を続けているものの、繊維原料(綿花、羊毛)、木材は引き続き減少し、原油はほぼ横ばいとなった(1,686百万ドル、前月1,689百万ドル)。

通関輸入額の伸びを価格と数量に分けてみると、輸入価格は食料品(砂糖、とうもろこし)、鉄鋼原料(鉄鉱石、石炭)の騰勢が続いたものの、繊維原料(綿花、羊毛)、木材、非鉄金属鉱等が下落

したため前月比 -0.3%となり、輸入数量(季節調整済み前月比)は前月著増の砂糖のほか木材等が減少したため、鉄鋼原料、とうもろこし、非鉄金属鉱等が増加したものの、全体では -0.5%の微減となった(前月同-1.3%)。

地域別にみると、中南米(季節調整済み前月比 +90.8%)、アフリカ(同+26.1%)が前月の反動もあって著伸したが、米国(同 +1.1%)、東南アジア(同 +1.1%)、中近東(同 -2.5%)など主要輸入先については、ほぼ横ばいにとどまった。

12月の輸入承認・届出額(季節調整済み前月比)は、11月 +9.2%とかなりの伸びを示したあと、-8.7%の減少となった。品目別には、特殊要因として原子力関係物資の著増がみられたが、繊維原料、非鉄金属鉱(銅鉱石、亜鉛鉱)、木材等は低水準を継続した。

11月の輸入素原材料在庫率指数(45年=100)は、同消費(季節調整済み前月比)が -0.2%と減少し、同在庫が +4.8%と増加したため、130.5 と前月比 +8.6 ポイントの大幅上昇となった。